

## 第4学年 国語科学習指導案

期 日 平成23年9月30日（金）公開授業2

授業学級 第4学年男子6名女子12名計18名

授業者 外館 裕美

授業場所 4年教室

### 1. 単元名 ①読んで考えたことを話し合おう

「ごんぎつね」（光村図書「はばたき」4年下）

### 2. 単元について

#### （1）教材について

本教材は、学習指導要領の国語科C読むことの（1）ウに「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」、オの文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づくこと」を中心としている。

本作品は、いたずらばかりしている主人公のきつね・ごんが母をなくしてひとりぼっちになってしまった兵十に心を寄せていく物語である。しかし、兵十はごんのその思いには気づいてくれず、ごんが死ぬ間際によりやく二人は、わかり合う。場面毎に読んでいくと、ごんの気持ちの変化についてとらえることができるであろう。次第に自分のことをわかってもらいたいと願うようになるごんの思い、なかなか相手に伝わらない切なさを叙述から読み取り、人間理解を深めることができる教材であるといえる。

#### （2）児童について

本学級の児童は発表意欲があるが、自分の考えを話そうとはするが適切に言葉を使えなかったり本題からはずれたりして、聞き手にしっかり伝わらないことが多い。また、自分の考えと比べながら聞き、考えを深めることも苦手である。一方、書くことは嫌がらずに取り組み、学習した漢字を積極的に使おうとしたり自分の思いを豊かに表現したりできる児童も多い。また、音読も上手になってきている。

しかし、考えの根拠を明らかにして読みとっていく事は、まだまだ不十分である。一人学びの際に主語やキーワードなどに着目しサイドラインを引いたり、自分の考えを書き込んだりすることはできるようになってきている。だが、学び合いの中で、自分の考えの根拠を叙述に立ち返って話すことは不得手である。以前に学習した「一つの花」では、父親の言動について書かれているところにサイドラインを引き、書き込みができた児童は、8割程度であった。けれども、学び合いの際に根拠を明らかにしながら話すことができた児童は6割ぐらいであった。場面を関連付けて読み、主題に迫ることができたのは、8割の児童であった。

#### （3）指導について

指導の際には、ごんや兵十の言動が書いてある言葉や文を手がかりにしながら、読み進めていく。そして、言葉から場面の様子を思い描く事ができるよう言葉に着目させる工夫を行っていきたい。また、場面毎のまとめをしっかりと行い、ごんと兵十の気持ちの変容をとらえさせることで、作品の主題に迫っていきたい。

確かに読みとる力を育てるための手立ては、課題意識を持たせながら、主語やキーワードに着目させ、サイドラインを引いたり書き込みをさせたりすること。学び合いが深まるような発問や板書の工夫を行うこと。そして、他の人の考えをよく聞き、自分の考えを深めることができるよう意見や考えの取り上げ方を工夫すること。場面読みで明らかになったことをノートに書かせたり、掲示したりして場面を比べて読む際に活用することである。

### 3. 単元の目標

- ◎場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。
- ◎文章を読んで考えたことを発表し合い、互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気づくことができる。
- 目的に応じて書くとともに、書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。

### 4. 評価規準

〔国語への関心・意欲・態度〕

- 叙述に着目して読み、感じたことや考えたことを進んで話し合おうとしている。

〔読む能力〕

- 会話や心情表現、行動から人物の性格や気持ちを読み取っている。【(1)ウ】
- 情景を表す文や語句に着目して読んでいる。【(1)ウ】
- 人物の行動や性格、人物と出来事とのかかわりについて読み取り、感想をまとめている。【(1)エ】
- これまでに読んだ他の本を想起し、比べたり重ねたりして考えたことをまとめ、交流している。【(1)オ】

〔書く能力〕

- 目的に応じ、条件に沿って文章を書いている【(1)ア】
- 書いたものを発表し合い、自分の考えと友達の考えを比べている。【(1)カ】

〔言語についての知識・理解・技能〕

- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。

【(1)イ(ア)】

### 5. 単元の指導構想表・指導計画（全13時間）・・・別紙

### 6. 本時の授業

#### (1) 本時の目標

兵十に気づいてもらえたものの、深くわかり合うことができなかった悲しさを読み取ることができる。

#### (2) 本時の指導について

前の場面までのごんの思いをしっかりと押さえた上で、その思いがどうなったかという課題設定を行うことで、叙述に目を向けさせ場面の様子をとらえさせていきたい。また、書く活動を通して、自分の考えを明らかにさせ、読み取りを確かなものにしていく。

研究主題に関わって、確かに読み取る力を身に付けさせるために、次のような工

夫をする。

ア 一人学び

[一人学びの仕方を明示]

兵十とごんの思いがわかるところにサイドラインを引かせる。そのサイドラインのところに、どのような思いか書き込みをさせる。この学習の仕方をわかりやすく提示する。

イ 学び合い

[学び合いが深まるような板書の工夫]

児童の考えをわかりやすく整理し、ごんと兵十の言動から二人の思いがどのように変化していったのか感情曲線に表し、話し合いを深めていく。

### (3) 具体的評価規準

観点	十分満足	おおむね満足	努力を要する 児童への支援
【読むこと】 ごんと兵十の思いの変化を叙述から読み取っている。	ごんと兵十の思いを根拠を明らかにし読み取り、自分の考えを発表したり、友達との違いを聞き取ったりし、豊かにまとめている。	ごんと兵十の思いを根拠を明らかにして読み取り、ごんと兵十の思いの変化や関係をとらえている。	ごんと兵十の言動に着目させる。

### (4) 本時の展開

段階	指導内容・学習活動 ○は主発問	重要語句・文	指導上の留意点 評価
導入・つかむ7分	1. 前時想起 2. 課題把握 <div>ごんの思いは兵十にとどいたのだろうか。</div> 3. 本時の学習場面の音読 ・指名読 4. 場面の読み取り <b>&lt;一人学び&gt;</b> <b>一人学びの仕方を明示</b> (1) ごんと兵十の思いが書いてあるところにサイドラインを引き、どんな思いか書き込みをする <b>&lt;学び合い&gt;</b> <b>学び合いが深まるような板書の工夫</b> (2) ごんと兵十の思いの変化について話し合う。 ・ごんは、兵十のためにまた、くりを持ってきた。兵十のことを大切に思っている。 ・兵十は、ごんのことをうなぎをぬすん	・こないだ、うなぎをぬすみやがったあのごんぎつねめが、またいたずらをしにきたな。「ようし。」 ・うちの中を見ると、土間にくりが固めておいてあるのが、目につきました。	・ノートを振り返りながら、前時想起させる。  ・ごんと兵十の言動に着目させ、サイドラインを引かせ、二人の思いについて考えさせる。 ・紙板書の準備  ・二人の思いの変化を板書にわかりやすく整理する。



< 単元指導構想表 >

	1	2	3	4	5	6
目標	学習の見通しを持ち、初発の感想を書くことができる	全文を概観し、読みの視点を明らかにすることができる	ひとりぼっちでいたずらばかりしているごんについて読み取ることができる	ごんの言動からいたずらをした気持ちを読み取ることができる	後悔しているごんの気持ちを読み取ることができる	つぐないをするごんの気持ちを読み取ることができる。
課題	心に残ったことについて感想を書こう	全文を読み、深く読み取りたいところを考えよう	ごんはどんなきつねなのか読み取ろう	ごんの首にうなぎがまきついてしまったのはどうしてか読み取ろう	どうしてごんは「あんないたずらをしなければよかった。」と思ったのだろう	どうしてごんは何日間もくりや松たけをとどけたのだろう
一人学び	一人学びの仕方を明示 印象に残ったところ、疑問に思ったところを見つけ、その根拠も合わせて感想を書く		押さえない言葉や文の明確化 どんなきつねなのか書かれているところにサイドラインを引き、わかることを書き込む	押さえない言葉や文の明確化 ごんの言動が書かれている文にサイドラインを引き、そこからわかることを書き込む	押さえない言葉や文の明確化 ごんの話していることをもとにごんの気持ちを書き込む	押さえない言葉や文の明確化 ごんの気持ちが書かれている文にサイドラインを引き、どのような気持ちなのか書き込む
学び合い		学び合いの形態の工夫 感想についてグループで交流し合う どのようなことについて読み取っていきたいのか話し合う	発問の精選・工夫 「ごんは、どうしてこんなにいたずらばかりしたのでしょうか。」と発問し、ごんの気持ちについて話し合う	ねらいに迫る意見や考えの取り上げ方 「外へも出られなくて」「びくのそばへかけつけました」などに着目させながら、ごんの気持ちについて話し合う	発問の精選・工夫 「ごんは、どんなきつねなのだろう。」と発問し、いたずらをして後悔しているごんの気持ちについて話し合う	発問の精選・工夫 「ごんは、兵十のことをどう思い始めているのでしょうか。」と発問し、ごんの気持ちの変化について話し合う
まとめ		ごんや兵十の行動や話したことに目を付けて読み取っていく 学習の見通しを持つ	ひとりぼっちの小ぎつねでしだのいっばいしげった森の中にあなをほってすんでいる。いたずらばかりしている	雨がふり続き外へも出られなくてたいくつでしかたがなかったごんは、兵十が一生けん命取った魚をにがすいたずらをしてしまった	ごんは、自分のせいで兵十のおつかあが死んでしまったと思い、いたずらをしたことをとてもこわいしたから	ごんは、自分と同じ一人ぼっちになってしまった兵十のため、うなぎのつぐないをしようとしたから
評価規準	【関】「ごんぎつね」を読んで自分の感想を書いている	【関】物語を読んで考えたことを話し合うという学習の見通しについて考えている	【読】ごんの人となりとその状況について読み取っている	【読】ごんの言動からその心情を読み取っている	【読】ごんの言動からその心情の変化を読み取っている	【読】ごんの言動からその心情の変化を読み取っている

	7	8<本時>	9	10	11・12	13
目標	兵十に自分のことを気づいてほしいと思い始めたごんの気持ちを読み取ることができる	ようやくわかり合えたごんと兵十の思いを読み取ることができる	「ごんぎつね」の主題について読み取ることができる	「ごんぎつね」の感想を書き、伝え合うことができる	新美南吉の他の作品との共通点をまとめることができる	書いたものを発表し合い、感想を伝え合うことができる
課題	どうしてごんは、「おれは引き合わないなあ。」と言ったのか	ごんの思いは、兵十にとどいたのだろうか	どんなきつねのお話だったのかまとめよう	「ごんぎつね」の感想を書き、交流しよう	「ごんぎつね」と他のお話とを比べて読もう	友達の発表を聞き、感想を交流しよう
一人学び	<b>押さえない言葉や文の明確化</b> 話を聞きたがっているごんの様子が見える言葉にサイドラインを引き、自分の考えを書き込む	<b>一人学びの仕方を明示</b> 兵十とごんの気持ちがかいてあるところにサイドラインを引きその気持ちを書き込む	<b>一人学びの仕方を明示</b> ごんの気持ちの変化に目をつけ、どんなごんに変わっていったかノートに書く	<b>一人学びの仕方を明示</b> 兵十とごんの気持ちの変化や二人の関係、情景描写に絞り感想を書く	<b>一人学びの仕方を明示</b> まとめ方について分かりやすく提示し、「ごんぎつね」と比較して考える	
学び合い	<b>発問の精選・工夫</b> 「どういう気持ちから、ごんは引き合わないなあと言ったのか。」と発問し、ごんが自分の存在に気付いてほしいと思い始めていることに気付かせる	<b>学び合いが深まるような板書の工夫</b> 児童の考えを分かりやすく整理し、二人の思いの変化について話し合う	<b>発問の精選・工夫</b> 「いたずらばかりしていたごんが、どうして兵十に気付いてほしいと思うようになったのだろうか。」と発問し、兵十に思いを寄せていったごんについて話し合う	<b>学び合いの形態の工夫</b> グループで発表し合い、自分の感想と比べながら聞き、似ているところや違うところについて話し合う		<b>学び合いの形態の工夫</b> グループで発表し合い、自分の感想と比べながら聞き、似ているところや違うところについて話し合う
まとめ	ごんの思いは兵十に近づいていき、自分のことを兵十に気づいてほしいと思っているから	ごんの思いは、兵十にとどかなかった。兵十はごんがつぐないをしてくれていたことには気づいたが、自分を深く思っていたことまでは気づかなかった。	いたずらばかりしているごんだったが、自分と同じ一人ぼっちの兵十に心をよせていった。死んでも、その深い思いまでは、わかってもらえなかった悲しいきつねの話	友達の感想の良いところをそれぞれまとめる	にているところについてまとめる	友達の発表に関する感想を交流し合う
評価基準	【読】ごんの言動からその心情の変化を読み取っている	【読】ごんと兵十の気持ちの変化を読み取っている	【読】ごんの気持ちの変化について考え、主題を読み取っている	【書】書いたものを発表し合い、感想を伝え合っている 【読】友達の感想を、自分の感想と比べながら聞き、違いに気づいている	【読】同じ作者の作品から選んで読み、「ごんぎつね」と比べている	【書】書いたものを発表し合い、感想を伝え合っている 【読】友達の感想を、自分の感想と比べながら聞き、違いに気づいている